

2026年5月 東京地区百貨店売上高概況

2026年6月25日

I. 概況

1. 売上高総額	1,425億円余
2. 前年同月比(増減率)	10.9%(5か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭11.4%(92.7%)：非店頭4.7%(7.3%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 22店 (本年4月対比±0店) (前年同月比：±0店)
5. 総店舗面積	675,846㎡ (前年同月比：1.2%)
6. 総従業員数	12,281人 (前年同月比：-1.7%)
7. 3か月移動平均値	10-12月 0.9%、11-1月 0.5%、12-2月 1.4%、 1-3月 3.2%、2-4月 5.0%、3-5月 7.5%

[参考] 2025年5月の売上高増減率は-9.1%

【特徴】

5月の東京地区の売上高は10.9%増と5か月連続でプラスとなった。株高や円安を背景に、ラグジュアリーブランドの靴やバッグ、時計、宝飾等の高額品が伸長し、国内顧客売上(10.1%増)、インバウンド売上(16.2%増)共に二桁増となった。具体的なアイテムの動向は以下のとおり。

衣料品(9.4%増)：月前半は寒暖差の影響により、ブラウス、シャツ、ブルゾン、ジャケット等、温度調節に適した羽織り物が動いた。月後半は真夏日を記録する日もあり、Tシャツやカットソー等、夏物衣料が伸長したほか、接触冷感やウォッシュャブルといった機能性商品も好調。子供服はインバウンドに人気の日本ブランドを中心に伸長し、3か月ぶりにプラス転換。

身のまわり品(16.7%増)：ラグジュアリーブランドの靴やバッグ等の高付加価値商品が国内外共に好調に推移し、前月から8.1ポイント上昇。婦人靴ではパンプスは低調だが、スニーカー等のカジュアルシューズやサンダルが好調。アクセサリはブライダル関連や、訪日客による購買が寄与し、国内外ブランド共に堅調に推移。

雑貨(16.7%増)：時計、宝飾等高額品が、訪日客や外商顧客からの高い需要を背景に大きく伸長し売上全体を牽引。化粧品は、国内外各種ブランドにおいてインバウンド需要が底堅く、引き続きプラスを維持。国内顧客売上は気温上昇に伴いスキンケアやUV関連商品に動き。

食料品(3.4%増)：GW期間中は行楽及び家庭内消費の高まりを受け、弁当や惣菜等が伸長したほか、物産展等食品催事も売上を下支え。菓子は手土産のほか、母の日商戦ではケーキ等洋菓子を中心に動き。ECを中心にスタートした中元商戦は概ね前年並みで推移。

6月足元動向：前年比7.9%増(6/18時点)。

【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日(前年同月比 ±0.0日)
- (2) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数17店舗)
 - ①増加した：13店、②変化なし：1店、③減少した：3店
- (3) 5月歳時記(GW、母の日)の売上(同上/有効回答数8店舗)
 - ①増加した：2店、②変化なし：5店、③減少した：1店

東京地区百貨店 売上高速報 2026年5月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	142,567,307	100.0	10.9
紳士服・洋品	10,378,105	7.3	5.8
婦人服・洋品	23,427,941	16.4	11.3
子供服・洋品	2,321,321	1.6	8.8
その他衣料品	1,538,614	1.1	8.4
衣 料 品	37,665,981	26.4	9.4
身のまわり品	27,329,124	19.2	16.7
化粧品	13,553,993	9.5	8.9
美術・宝飾・貴金属	21,928,839	15.4	22.9
その他雑貨	4,277,093	3.0	13.3
雑 貨	39,759,925	27.9	16.7
家 具	1,278,220	0.9	5.0
家 電	1,655,624	1.2	17.8
その他家庭用品	2,769,421	1.9	-4.5
家 庭 用 品	5,703,265	4.0	3.3
生 鮮 食 品	3,143,590	2.2	1.7
菓 子	8,337,413	5.8	5.5
惣 菜	6,369,731	4.5	3.4
その他食料品	8,367,997	5.9	1.9
食 料 品	26,218,731	18.4	3.4
食 堂 喫 茶	2,302,252	1.6	6.3
サ ー ビ ス	2,859,248	2.0	16.8
そ の 他	728,781	0.5	-36.2

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	1,136,895 千円	-6.0
従 業 員 数	12,281 人	-1.7
店 舗 面 積	675,846 m ²	1.2

営 業 日 数	31.0 日	前年	31.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は全てプラスとなり、身のまわり品、雑貨は二桁増となった。
その他の品目は、婦人服・洋品が9か月連続、化粧品が2か月連続、美術・宝飾・貴金属、菓子、惣菜が10か月連続、生鮮食品が26か月ぶりにプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	10.9	—	5か月連続プラス
紳士服・洋品	5.8	0.4	4か月連続プラス
婦人服・洋品	11.3	1.8	9か月連続プラス
子供服・洋品	8.8	0.1	3か月ぶりプラス
その他衣料品	8.4	0.1	2か月連続プラス
衣料品	9.4	2.5	5か月連続プラス
身のまわり品	16.7	3.0	3か月連続プラス
化粧品	8.9	0.9	2か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	22.9	3.2	10か月連続プラス*
その他雑貨	13.3	0.4	9か月連続プラス*
雑貨	16.7	4.4	9か月連続プラス
家具	5.0	0.0	2か月ぶりプラス
家電	17.8	0.2	3か月連続プラス
その他家庭用品	-4.5	-0.1	2か月ぶりマイナス
家庭用品	3.3	0.1	3か月連続プラス
生鮮食品	1.7	0.0	26か月ぶりプラス*
菓子	5.5	0.3	10か月連続プラス*
惣菜	3.4	0.2	10か月連続プラス*
その他食料品	1.9	0.1	9か月ぶりプラス*
食料品	3.4	0.7	5か月連続プラス
食堂喫茶	6.3	0.1	8か月連続プラス
サービス	16.8	0.3	2か月連続プラス
その他	-36.2	-0.3	2か月連続マイナス
商品券	-6.0	-0.1	27か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・青柳 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>